

勝手にスピンアウト脚本

『見つかった運動靴』

【街（夜）】

二人、ぼんやり歩いている。

【公園】

純、すべり台の上にすわっている。

螢、砂場にすわっている。

純「（急に）オイ」

純、すべり台を降りてくる。

螢「？」

純「昨日の靴屋にあった靴まだあるかな」

螢。

螢「行ってみよう！」

二人走りだす。

【靴屋前】

二人走ってきてとまる。

すでによろい戸が閉まっている。

純と螢。

間。

純あきらめて行こうとする。

螢「お兄ちゃん！」

一方を指す螢。

収集用に出したゴミの山。

その中にある靴屋のダンボールの中をさがす。

ない。

つぎをさがす。

ない。

つぎをさがす。

声「何してるのお前ら」

音楽・・・中断。

若い巡査が立っている。

純「運動靴をさがしてます」

巡査「・・・だれの」

純「ぼくらの」

巡査。

二人の新しい運動靴。

巡査「どういうこと」

純「昨日おじさんがぼくらに運動靴買ってくれて、前はいてた古い靴を、もう捨てなさいと渡しちゃったので」

巡査。

純「だけど、その靴まだはけるから」

巡査。

巡査「おじさんは捨てろっていったンだべ？」

純「でも、おじさんは・・・事情をよく知らず」

巡査「おじさんってだれだ」

純。

純「母さんがいっしょになるはずだった人です」

巡查。

巡查「母さんてどこにおる」

純「四日前死にました」

巡查。

間。

巡查「このゴミン中にたしかにあるのか？」

純「いえ、そこんところは」

巡查「あっちにもあったぞ。あっちいオレがさかしてやるから、お前からそこさがせ、さがせて（行く）」

純「ハイ」

語り「急に。涙がつきあげた。拝啓、恵子ちゃん。なぜだかわかりません」

音楽・・・テーマ曲、流れこむ。

【靴屋奥】

巡查の声「あったぞ！」

【靴屋前】

靴屋奥を見る純と螢。

純たちの元へかけてくる巡查。

その手には二足の運動靴。

巡查「これでないかい？」

純「あ、そうです。これがボクの。こっちが螢のです。あ、ありがとう

ございます」

巡査「泣いとるのか？」

純、涙をふく。

純「いや、まあ」

巡査「そりゃ母さんが亡くなったんだ。泣いたっていい。いっぱい泣くといい。実はオラも小学二年生ンとき母ちゃん亡くしとるから、お前の気持ちはよくわかるぞ」

純「あ、はい」

巡査「いいか？強く生きるンだぞ。妹もな」

二人の頭を撫でる巡査。

螢「・・・(うなずく)」

【令子のアパート】

帰ってくる純と螢。

雪子「あなたたちどこ行ってたの？」

純「この靴探してた」

雪子「なあに？汚い靴。新しいのあるでしょう。吉野さんが買ってくれたの」

純「あれはあるけど、この靴、まだ履けるから」

雪子「汚いわ。もう捨てなさい」

純「嫌だよ。だってこの靴は父さんが買ってくれた靴で、一年間ぼくらの足を守ってくれ、破れたら父さんが縫ってくれ、それに・・・お巡りさんも探してくれた靴で、まだ履けるから」

螢「螢も捨てない！」

雪子「あらそう？・・・」

【ゴミ捨て場(夢)】

語り「その晩ぼくは夢を見た」

ダンボール箱に古い靴を捨てる雪子。

ダンボールから拾ってくる純と螢。

また取り上げて捨てる雪子。

語り「ぼくがやめてくれというのに、雪子おばさんが靴を捨てる夢だ。どうして捨てるの？と聞いてもおばさんはこたえなかった。ぼくと螢がダンボール箱から拾うと、おばさんはまた取り上げて捨てるんだ。汚い靴だけど、・・・それは・・・父さんが買ってくれた靴で」

音楽・・・もりあがって。